



院生ライフレポート



研究成果発表会・中間発表会

2月19日(木)、同26日(木)に、本教職大学院2年生(以下、M2)による研究成果発表会が行われました。

初日は、「何が主体的な学びを生み出すのか」というテーマでシンポジウムが開催され、本大学院の竜田徹准教授からは「児童生徒が学びに夢中になる学習指導の工夫」、本大学院の江川美津矢客員准教授からは「特別活動でつなぐ子どもの主体性」、本大学院OBで佐賀県立彩志学舎中学校の牟田口恭子教諭からは「教員のコンピテンシーに基づく授業づくりと生徒の視点」という内容で、研究や実践が紹介されました。主体的な学びとは何か、そして、主体的な学びを実現するためにはどうすれば良いかについて、改めて考えることができました。



研究成果発表では、本大学院で学習したM2が、学校現場で実践された成果について、分かりやすい発表を行いました。1年生(以下、M1)はこの発表会で得た多くの学びを、新年度から始まる実践に生かしていきたいと決意を新たにしました。

また、3月5日(木)には、M1の研究成果中間発表会がありました。1年間の学修を踏まえ、来年度の学校課題探究実習・学校変革施行実習に向けた今年度のまとめとなる発表を行いました。ここで先生方やM2の先輩方からいただいたたくさんのご意見を、来年度の実習に生かしていきます。

教職大学院 1年目の振り返り

【現職・教育経営探究コース】

大学院では、専門的な理論をもとに学校現場を見直すことで、今まで見ていた視点とは違う視点で学校現場をとらえることができるようになりました。また、他校種の先生やストレートマスターとの関わりの中で、多様な考えを得たり、楽しく過ごしたりすることができました。とても有意義な学びの場だと感じ、深く感謝しています。

【ストレートマスター・授業実践探究コース】

教職大学院1年を通して、理論と実践を往還しながら自分の未熟さと向き合い続けてきた1年でした。探究実習や研究では、自分の問いの浅さや見取りの甘さを痛感しました。一方で、現職の先生や他の人との対話や省察を重ねる中で、子どもの事実から考える姿勢や根拠をもって語る力が少しずつ身についてきた実感もあります。多くの失敗も含めて学び続けていきたいと思います。ここでみんなと共に悩み、語り合った時間は何物にも代えがたい宝物です。



10期生お揃いのポロシャツで、「10期(X)」ポーズでの集合写真。